05 年 8 月 21～22 日　AKAN 会

鉄道考古学、雄琴温泉、伊吹山

旧国鉄 JR 西日本の OB である草木君から「NHK 神戸文化センターで『関西　昔の鉄道見て歩き』なるテーマの講師をやっている。現地の下見などもあるので同伴しませんか」との誘いを受けた。テーマの中から「旧東海道　京都・馬場(現在の膳所駅)間を歩く」のコースの主要ポイントを案内してもらうことにした。

「鉄道考古学」については「AKAN のホームページ」の「よういち親方のページ」
　　http://www5b.biglob.ne.jp/~gazan/akanclube/kusaki/kusakin.htm
「鉄道歴史街道をゆく」「鉄道路線跡をあるく」に詳しく紹介しておりますのでご覧ください。

JR 奈良線稲荷駅に 10 時に集合した。残暑厳しき季節のことなので、皆さん熱中症対策スタイル。

まずは草木君から、明治 11 年に着工された旧東海道本線の京都～大津のルート、明治 13 年に完成した旧逢坂山トンネル、そして大正 10 年に変更されたコースなどについて、彼が用意してくれた明治 22 年の 2 万分の 1 縮小の貴重な地図で概略の説明を受け、稲荷駅の一角にある年輪を感じさせる赤レンガ造りの「ランプ小屋」を案内してもらった。

現存する国鉄最古のランプ小屋だそうな。

小屋内には、国鉄時代に使われていたランプをはじめ、貴重な鉄道にまつわる品々が所狭しと展示されている。

今回の旅では、北浦君のマイカー・トヨタナディアにお世話になることにした。

伏見稲荷神社の駐車場で乗せてもらって、旧逢坂山トンネル東口方面へ車は出発。

草木さんの案内もあったが細い道路を右や左へ、どこで通行止めになるやらとの思いで、やっと大谷近くの国道１号線へ出た。すぐ東が蝉丸神社の辺りである。

国道 1 号線から京阪京津線の大谷駅手前の踏切を渡って細い脇道に入ると蝉丸神社の石碑があった。

付近には「車石の大理石案内」、急な石段の上には「蝉丸神社」があり、古えの京の都の東口に位置する逢坂山付近には史跡が多くあることがわかる。

百人一首で有名な「これやこの　行くも帰るも　別れては　知るも知らぬも　逢坂の関」は蝉丸法師の歌です。平家物語では後醍醐天皇の第四皇子とされている謎の多い人物です。この神社の近くに「逢坂の関」があったようですね。

関心のある方は、http://www.norichan.jp/jinja/benkyou/semimaru.htm　などへ。

細い道と京津線にはさまれて「日本一の鰻・かねよ」の店がある。この看板は近くの道路に数多く見られる。玄関から日本庭園の奥にある離れ座敷に案内された。なかなか落ち着いた雰囲気の部屋である。皆さん好みの料理を注文する。しばらく待つと料理場から仲居さんが庭の向こうから運んでくる。小生は食通ではないので、日本一の味かどうかは判らないが、しっとりと落ち着いた庭を眺めながらの食事は、それなりに値打ちがあるように思えた。

さて「日本一の鰻・かねよ」であるが、同じ名の鰻屋が京都新京極の中にもある。こちら

も「日本一の鰻・かねよ」と宣伝している。仲居さんに訊ねると「当店とは関係ありません」とのこと。

ついでに「車石」にも触れておこう。

大津と京都間の東海道は多くの物資を運ぶ道路でした。江戸時代はほとんどが牛車でしたが、逢坂峠、日ノ岡峠を越える通行の難所でした。京都の心学者脇坂義堂が花崗岩の切石を敷き詰めて牛車の専用通路にしました。切石には車の溝が刻まれており、これを「車石」と呼んでいるとのことです。　http://www.aaa.or.jp/~yamasaki/kurumaisi/

次に、蝉丸神社北側の逢坂山トンネル跡(西口)記念碑と浜大津へ下る手前の今は京大地震研究所になっている旧日本国有鉄道の鉄道記念物である旧逢坂山ずい道東口に案内してくれた。

次に車は膳所駅へと向かう。車を駅前の駐車場に入れて、線路をまたぐ高架橋の上から草木君の説明を受ける。京都・大津間が開通した当時は、列車は馬場駅(現在の膳所駅)で折り返して大津駅(現在の浜大津駅)へ向かったとのことである。

これで京都・馬場間が開通当時の見学は終わりとなる。すぐに宿へ向かうには時間が早すぎるので、近江大橋を渡り草津市の矢橋帰帆島方面へドライブする。帰帆島にある「水環境科学館」を見学して後再び近江大橋へ引き返し湖西の雄琴温泉へと向かう。

今夜の宿は「緑水亭」。インターネツトでの予約では１０畳部屋で５人ということだったが、案内された部屋は５階の１２畳と６畳

の続き部屋で、窓からは琵琶湖が一望できる。

まずは大浴場の温泉に浸かることにする。最近改装されたという露天風呂は広いし、ゆっくりと温泉気分が味わえた。

部屋に戻ってからは、夕食までの時間を皆さんが持参してくれた酒をチビチビやりながら歓談。

草木君が「デジカメ IXY の撮影設定がわからない・・・」というので、カメラを囲んで皆さんでいろいろと苦労する。取扱説明書も手元にないし一時間ほどで諦めかけたところ、北浦君が押したボタンで設定の糸口が見付かり一挙に解決した。これはこの時間の最大の収穫であった。

草木君は、昨年の夏に喉頭ガンの手術を受けている。手術後は放射線治療で大変苦しんだ・・・との話しも拝聴した。昨年末には「食べることに苦労している。食べながら話すことは辛い」と言っていた。12 月 2～3 日の AKAN 会は「無理をしないように」と他のメンバー全員で彼に欠席勧告をした。今日現在も「喉のひっかかりはあって食べにくい・・」とのことだが、元気に快癒の方向でよかったです。

小生は体調が悪いところに車酔いでダウン気味だったが、温泉と酒のおかげで少しは元気になってきた。

夕食は６時から６階の別室で用意された。落着いた部屋で料理もまずまず。食事係りの千代子さんは、客扱いに慣れた気さくなオバサンで最後には同席して日本酒をグイグイやっていた。

２時間ほどの楽しい夕食であった。

部屋に戻って北浦君は「義経」を視るべくテレビの前で横になっていたが、５分も経たないうちに眠っていた。一日中の運転でさぞお疲れのことであろう。また明日もよろしくお願いします。

明日は伊吹山行きのため早く出発したい。朝食は７時過ぎに頼んである。

今夜は早く寝ることにしよう。皆さんオヤスミナサイ。

小生はいつものように５時前に目覚めた。

夏もこの時期になると夜明けが遅い。

まずは 24 時間 OK の露天風呂へ。誰もいない温泉に浸かり夜明けを眺めるのは何とも心地よい気分である。

部屋に戻り窓から琵琶湖の夜明けを撮ろうとしたが窓が開かない。久原君が起きてきて開けてくれた。

朝食は１階の別室で、昨夜の千代子さんが迎えてくれた。朝食写真のシャッターは、くみ子さんにお願いした。

今回の宿「緑水亭」は、部屋も風呂もよかったし食事もまずまず、料金のわりには満足。

玄関で記念撮影。これも宿のオッチャンにシャッターを頼む。

さて、伊吹山へ向かって出発と相成る。雄琴からすぐ北の琵琶湖大橋を渡り湖東岸道路を北進。

天気もまずまず、伊吹山頂で高山植物を撮影できそうである。

途中、近江八幡辺りでまた気分が悪くなってきて「休暇村・近江八幡」で休憩をお願いした。

トイレに駆け込み少しは回復。久原君が氷を買ってくれた。

この「休暇村・近江八幡」は始めてだが、なかなか立派な建物で内部の設備も中堅クラスのホテル並みの感じ。料金は安いので一度利用してみようと思う。

車中では焼酎の氷割りをチビチビやりながら、車は米原から関が原、伊吹へと向かう。湖岸道路の樹木の緑と青い湖面の風景は目を楽しませてくれる。

伊吹ドライブウエイの入口で「霧に気を付けてください」と言われ、少し不安になる。

車が上るにつれ、だんだんと不安が強くなってきた。頂上に着くと視界５メートルほどの濃霧である。車外へ出ると、雨は降っていないが衣類がベタ付く。駐車場の近くを少し歩き、適当な場所で記念撮影をしたが、目的の高山植物を撮影できるような天候ではない。片道20分ほどの散策コースが案内されていたが、足場も悪く危険なので諦めることにした。

30 分ほどで引き返すことにした。駐車場では我々の車を見失いそうな濃霧である。

そして車が少し下ると視界はウソのように明るくなる。山の天候はわからないものだ。

残念な気分だが天候には文句も言えないし、これぱかりは仕方あるまい。またの機会があることを念じつつ・・・。

関ヶ原ICから名神高速で栗東まで、そして草津の自宅まで送ってもらった。近くの「うどん・さがみ」で昼食。拙宅の離れ小屋で少時間休憩してもらいお別れした。

今回は北浦君に車と運転をお願いし、そして毎度のように会計のお世話にもなった。

小森君にも毎度のように写真係りをお願いし、きれいな大判のフィルム写真を頂戴した。

この旅日記の挿入写真に使わせていただきました。

皆さん、愉しい二日間のAKAN会でした。ありがとう。

小生は体調が悪く、皆さんにお気遣いをいただいたことに感謝しお詫びします。

草 石　記